

長年にわたって筆者が夢見てきた日本籍の大型クルーズ客船がついに実現する。ここでの大型とは、10万総トンで旅客定員が4千人超の船という意味である。

これを実現してくれるのは、東京デイズニーランドとシーを運営するオリエンタルランドであり、すでに米グループ内でクルーズ客船を運航する米デイズニー・クルーズラインがそのベースとなる。

日本籍大型客船実現

米デイズニーが、クルーズ事業に進出したのは1994年で、それまではオフィシャル・クルーズとして認定していたブレミア・クルーズを受け継ぐ形で、8万総トンの客の連続建造に入った。

船を2隻建造して、フロリダの陸上施設ウォルト・デイズニー・ワールドと連携

するカリブ海クルーズに投入した。陸上で数日遊んだ後、海上のデイズニーを数日楽しむというパッケージが中心であった。しかし、このビジネスモデルは思ったほど成長せずに、両船は時には欧州等において出稼ぎクルーズも実施した。デイズニー・クルーズが、事業の拡大に着手したのは開業17年目の20

17年からは2〜4泊と短期で、料金は10万円からとのこと。カジュアルからプレミアムの層がターゲットのような。ドイツで建造される同船の旅客定員は4000名、乗組員数は1555名。カボタージュを避けるために船籍は日本にするという。船内はデイズニー色にあふれるだろうから、これまでの日本のクルーズの客層とは違った新しい層を船旅に誘ってくれるに違いない。目標とする年間旅客数は、現在の日本のクルーズ人口35万人よりも多い40万人だという。筆者らが約25年前に打ち出した「日本のクルーズ人口100万人構想」が米国生まれの現代クルーズの進出拡大によっていよいよ現実のものになる。まさに「ドリーム・カム・トゥルー」である。

灯航